



2月県議会（2/17～3/16）が開会中です。

3月2日の**石坂ちほ**県議の一般質問と答弁を紹介します。

「栄村仮設のお風呂追い焚きは切実、電気保温器でも早く」石坂 「切実な状況など把握し対応したい」：知事

石坂県議は、「高齢者が多い、豪雪地の栄村で、仮設住宅のお風呂の追い焚きができない、これは人権問題ではないか。」と迫り、「大掛かりでなくても、市販の電気保温器等も含め、一日も早い設置を」求めました。**知事**は、「住民の切実な状況等を十分把握して対応していきたい」と答弁しました。

「福島被災者、4月以降も受入継続を」：石坂 「福島県と国の協議見て、対応したい」：知事

石坂県議は、福島県内の被災者の中には「これから避難を考えるケースもある」、4月以降も被災者の受け入れ継続を」求めました。**知事**は、「福島県が継続となるように国と協議している状況等を見ながら対応したい」と答弁しました。

「FV断層は活断層」「異なる双方の専門家による公開の説明会を」：石坂

石坂県議は、延期されている「追加調査の住民説明会はいつ頃の予定か」と質問。同時に「専門家の小坂氏と松島氏は、『断層面の礫や地形や木片の年代測定等から FV 断層は明らかな活断層である』との意見書を県に提出しており、公開の場で見解の異なる専門家双方の説明を行うべき」と提案しました。

建設部長は、「県が調査を依頼した産業総合研究所へ3月中旬に再度いき説明、その後に見解を伺い、その上で県民に説明をしたい」とし、見通しが立たない状況が明らかに。「見解の異なる専門家双方による公開の説明」については答えませんでした。

石坂県議は、「震災後の新たな再検証であり、検証が終わるまでダム建設は中止するのが誠意ある対応」と質しました。**知事**は、「いままでの判断を変える結果が出ているわけではない」と従来答弁でした。

「絆」再生事業：「できるだけ弾力的な対応したい」：健康福祉部長

石坂県議は、シェルター、ボランティアの経費、炊き出し費用などを、「生活困窮者の自立支援という事業目的に添う限り基金を使えるように使い勝手の良い基金として充実を」求めました。

健康福祉部長は、「できるだけ弾力的な対応を心がけてまいりたい」と答弁しました。

県立4年制大学、「グローバル時代に対応できる人材をつくる」：知事

石坂県議は、「県立4年制大学が担うべき教育分野について、どのような構想か」と質問。

知事は、「グローバルな時代を生きる幅広い視野や国際感覚をもった人材の育成」「地域の産業界、地域の活動にも貢献できる大学」などが重要と答弁しました。

質問を終えて 石坂ちほ
大震災と原発事故からちょうど一年目となる議会に長野県政が希望をつくり出すことを願って質問しました。
被災者への支援をいっそう強めながらあたたかい県政をめざしてがんばります。